【巻頭言】

城西と歩んできた時間を思う

城西大学事務局長　　榎　本　勝　美

城西大学は1965年、「学問による人間形成」を建学の精神として創立されました。気づけば、私自身もこの大学で学び、働き、そして支えられながら過ごしてきました。2025年、城西大学は創立60周年を迎えました。長い歴史の中の一時期を、この大学の一員として歩んできたことを思うと、あらためて多くの人に支えられてきたのだと感じます。

本号には、教育や医療、文化、理学など、いろいろな分野で地域と関わる取り組みが収められています。どの活動も地道で、派手さはありませんが、そういう一つひとつの積み重ねが、大学と地域をつないでいるのだと思います。

JOSAI HUBやJOSAI SQUAREといった新しい拠点も、－学生が少しでも自由に学び、つながり、成長できるように－そんな願いを込めてつくられました。そこに自然と学生や地域の方が集まって話している姿を見ると、この大学が少しずつ未来に向かって動いているのを感じます。

そしてもう一つ、長く願ってきたことが形になりつつあります。

一昨年11月に、川角駅に「学園口」が完成しました。改札口の新設により、踏切を渡らずに通学できるようになり、駅周辺の混雑が改善され、安全性も大きく向上しました。また、令和９年には学園口から大学まで新たな道が完成する予定です。長い年月をかけ、地域の皆さんのご理解をいただきながら進めてきた「川角駅周辺整備事業」が、いよいよ完成間近となりました。

通学やキャンパスライフがこれまで以上に安心で快適なものになっていくのを感じると、あらためて多くの人の力に支えられてきたことを実感します。

卒業生として、そして今は大学を支える立場として、そんな変化をそばで見られるのは幸せなことです。大学や地域の皆さんと力を合わせながら、お互いに支え合い、育ち合う姿に触れるたびに、ここで過ごし、今もこの場所に関われることに、深い縁を感じます。人と人の関わりが、この大学のいちばんの力だと思います。

これから先を歩いていく学生や若い職員の皆さんには、人とのつながりを大切にしてほしいです。うまくいかないこともあると思いますが、誰かと力を合わせて何かをやり遂げる経験が、きっとこの大学で学ぶ意味を深めてくれるはずです。